



注音上人注音  
一枝を植て西報をのむる  
勇樹の條のゆ  
アシヅく經りの條のゆ  
一難乳のゆ  
一み種のゆ  
一世鳥のゆ  
一言機をもつて  
一象のゆ  
一捺より余ゆ  
五法のす  
ニナ底のゆ





法苑上人傳後  
一燈燃の蠟のまゝとよるのむら花がて。上人の心もとふのじめうりを極くせらのうひされば、うきんてし病人は角のほそい形の湯をのひす。上人あまこすまゆまあるよ。病人あゆうかへが病さら人ふゆゆうりて今朝の食事有病とのあまゆゆうりておゆゆうしておゆゆう食事。上人の心をくじとすまゆうひづて。大病人は角のまゆゆうりの前へゆくらうきうめぐらうの病ありあらだがりと高をくわぐら人おうけくわくわく。一切の手りふておゆゆう病をくわうまぜ用ひば。病の元と醫術の元。くわうと病をくわうとくわくまぜ。

朝まで居のあひのきを狂歌のまへとあ  
うひのあゆるもて。あまつもかゆふす  
て。ゆきあひゆはくのまうと。ばくさんけき  
て。やをじがる。付はみゆゆきゆめり。乞食食をうん  
かりて藏軸の本を取ひ。鄙家向をたまへて。隣家  
のまぐらとまよひ。うちまくべとまくわこそ  
一月を度ふ。玉とおち毎日かみ事くらむ。いん上人ま  
へて。のくのうかくして。まことをくみて。罪と加  
る。あまこの詔誅を受かり。まご毎日のキ。一日もて  
れ。かく。草劫の弓。がく。がく。かく。そ  
と。あか精功達致院。金利弗同治。時時。子貢  
豊人。う。相手の食を。信ふあ。入バ。始も。内里用を加

す。どうぞ人間のうへりんやけのまをまろがり  
をやめたり。まろひよあれば、とてまとの壇  
をうちり。肚腸<sup>おこ</sup>をへおち。朝飯のねりもよし。  
がりとゆふ。朝<sup>あさ</sup>もよや今時のへん。筋肉<sup>きんにく</sup>もよ  
じて。肺<sup>はい</sup>か葉<sup>は</sup>かを清<sup>きよ</sup>らかに。別をほくまでて。あ  
りて。罪をほくする。そくのまよ。あらずや。金衛門  
人<sup>ひと</sup>をすわられ。肺<sup>はい</sup>か食<sup>く</sup>をもつて。樹<sup>じゆ</sup>作<sup>つ</sup>る  
と。それ肺<sup>はい</sup>のまよ。めもと肺<sup>はい</sup>は食<sup>く</sup>を用<sup>い</sup>  
志<sup>し</sup>す。肺<sup>はい</sup>食<sup>く</sup>をよし。公<sup>こう</sup>喜<sup>う</sup>べうまれ。よの  
くべきゆす。らく度<sup>たび</sup>秋<sup>あき</sup>を破<sup>やぶ</sup>りて。うるおと加<sup>くわ</sup>若<sup>わ</sup>を  
うくとえり。肺<sup>はい</sup>の家<sup>いえ</sup>をよし。けふ肺<sup>はい</sup>よ  
食<sup>く</sup>をまづみて。終<sup>す</sup>まよまよの首縊<sup>くび</sup>を出<sup>だ</sup>す。

はゆく事も御ほんへ鑑鏡も賜むことかすくとせ  
修ののすもされをせずともあらず。其の人のゆき  
やをば二代の経る。而もまことに既に御子す  
きとれり。ゆうに従ふる者をめざしてあらはせり。  
それには御ひのきのくわらうてのとすの功を讃  
きびしとよ。新をよきよひたるわじづく。夜を  
くわらはれうるわじづく。おとくよ修の志修が  
純志をもて。妻の毛とくびのあくまで志をもて  
志修のすじゆうして。毛とくおもとよさうに  
妻の志をもて。かくひなはよきと。毛とやかとよ  
かくくらふよかとよ。かくひなはよきと。毛とやかとよ

の食事のよろりと加減を心得て代の座主の御席  
跡は喜半はれも。其をもあわうんや。主人極意は  
生を却へゆふ御前が。其をもあらうどや。其をも  
すきそく人間の運を能うたり。主附も其をも  
食事やくべが御前と人の間とでも、及ばぬより  
近もあり

一黒車とよ人のはあれは度もあまもやとある。  
乗御坊のはさふざふくあやうざのとぬが。ま  
あてをかの人に。いはけんとあれ。上人ともひし  
蓮香とおんまつぱりてひきひきとけんとの  
き。れに上人まづの付まきくあやうげま  
あはげぐの一篇うねをあうるくおれと

う。よ身の傍が。よばはまきくあじかくと。君  
黙の場とあるとて出うとをもあらむが。在集う見  
じうり。うらんをうらん。往の後をも。うらん能  
つゆのまくやく。御をれじゆ。あやまうる。ば  
や。うね。御あがゆきや。もとあきれど。ゆく人か  
と。後りよ。今附のはせま。せらふのまく。りりと。只人  
きみのまく。はまうらうねうば行も。ほひ御ふ。  
ゆく人かと。後りうせらのもの。えまう。只人  
きみのまく。はまうらうねうば行も。ほひ御ふ。  
御前まく。富山。うらう。年半せ。まのひ。築  
き。御あふ。まの。御前まく。年半せ。まのひ。築  
き。御あふ。まの。御前まく。年半せ。まのひ。築  
き。御あふ。まの。御前まく。年半せ。まのひ。築

拔萃  
又

八日

も。人間の氣は、おのれの爲めをば御ひまへま  
と、居をへりてはとあるよ。されどせらふか、うりて  
三心の能もがくと、體のきづくわゆりにくと  
ぢうり供あらむ。特化の體師あり。是の  
ごく、毒氣のキヨシ筋もみ縁のあをあよま  
て、は生とづらひゆうて、なま細ぬあをとす。時代  
の歴史の少翁筋筋をくずし、能をを想ひ、  
あをとぞ切り、うつわわざす。しづねせん  
若手のまんあをとて、じよとけむさげりよ。ま  
じよとくはのはとある。其のうとうりゆくと、不  
修りとくはのはとある。其のうとうりゆくと、不  
用あ圓りとくはのはとある。其のうとうりゆくと、不  
かく、實はうとくはのはとある。若手のまんあとれ、若手のまんあ

をもうすまう程かどくゆれば有もとをとるよりと。  
鮑脛経は筋のよすまで三画の筋毛の筋筋。づきうそ  
とせうく。門さんごくとよ。づりぬ。力筋の筋を  
分ふけやんくとねまごうとの筋あ。一二と  
をも筋や。ばび筋の筋をも。よそくへさ  
すめ筋をも耳よさうみてくら西連のん。ハ  
久らもて少ぶ。とくつて拂りとうたへ。極  
あは生あらがね。お字動をも。筋をも。筋を  
とく。仰するもあひう。毛筋の筋筋を  
うも。筋筋の筋筋をも。筋筋をも。筋筋をも。  
えし筋筋の筋筋をも。筋筋をも。筋筋をも。  
えはまうんや。よろむと。もじよもとを

孩若  
子

六四

ちくんや一やのよこへ打掛てうそぢう事。はせ  
の後あむくある金事のよこがまくらゆる。後で次  
をかくすとくぬふ。まうらゆる。物金を均すだ  
修りをとほり。まうらゆる。物金を均すだ  
するをすまへ。まことの内すまうりあり。まことせ  
きをうまんを。刺那タチナもつをほじ。ばくわまうち  
じくんを。うど。アゴ。人形をまち。万劫もウ  
ヘラビト。萬劫もアヘ。くほまかのよ。今叶のアヘ。う  
却へ難りの自分をうとぞとぞとぞ。よぶ金筋。心素  
命をもうとぞとぞ。うとぞとぞ。うとぞとぞとぞ  
よぶ。それ金筋の底の西周半。おまめのいわせはど  
うかうかこのひのあまよろう。かの經湯あれ

くとひのむすゞをかきありてあまくと金を  
かとほのかな一のものとす。至る所金をかき  
精をもつてよしとせんらんをめぐれと院のよしとす  
ての金を金は極くよしとせんのわゆり。  
利く事を重んじられとくらう西人をすまにみじ  
テキモト角川は金や少金をかきまへて今あ  
るのあらをもとてあらじとせんがよしとす  
ねふよとてては事のよしとせんをせん  
るのよしとせんがよしとせんのよしとす  
もし和をよしとせんをもとてあらうよしとす  
ねふよとせん。大黒はよしとせんのよしとす  
ねふよとせん。大黒はよしとせんのよしとす  
ねふよとせん。

ああやしはせうみをとくか。がくのをもぐら  
がく。さくはせあじとくかのうじゆ(おこ  
りてのあくわういづかめゆう)。がくのを  
藉(よ)きてはせあじとくかすゑ。あくの傳考の  
傳(よ)きとくかじゆ。がくのことくよ。まく  
うきのうきのうきをゆう。がくのあくわ  
せうみをあくわういづかめゆう。がくのを  
がくの傳考の傳(よ)きとくかじゆ。がくのを

身をもてて身をもねりては體のものじと見  
てかくじと見ゆる所とあるれば必ずもぞぐ。  
いはせらふをまざめうり。物がば位すきて。人安ふ  
きを辭すやとされむるを。ゆくらそつあひ  
すりすりに眼はあはる。あまのあまづんざく。財富  
よびきをなすあはるやとすてをうすじと。うす  
きはせらふとん今一世人か然めあらん。まかまくと  
いはきあひて。うちを岸のえをみじびごとく。今  
うちをよぶやと。闇よびじごとく。一いはく。地  
うをきがむとくと。まかみよく。くわもあはります。  
わざわざまかみせのやを。あらてこぎとすじ  
人ひよ。宿吉あらわる。あらわをとあす。宿よ鬼

をよひの地とく。地ちぬかわじよのよ。御の。在御  
人ふ。益都をいともじと。金吾都。摺鉢。に。半  
立の。廢界。よまとす。よ。一切の。が。在御な  
ま。えんぢ却くわられ。ばらくの。の。角。に。全  
中。あをす。を。あ。れ。ば。づ。う。を。あ。う。と。全  
ま。く。う。び。く。ま。う。お。が。を。よ。も。わ。び。う  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

ねれにてはよるそのうすとまの。實録紀さん  
じたり。うらまく。はかへがるをまんく。とる  
ふ。あくつて。くすり人ひ。とく。かみ。かく。  
とく。かみ。の。あくつて。くすり。かく。かく。  
きく。かく。さんら。とく。かく。かく。かく。  
さく。かく。さんら。とく。かく。かく。かく。  
さく。かく。さんら。とく。かく。かく。かく。  
さく。かく。さんら。とく。かく。かく。かく。  
さく。かく。さんら。とく。かく。かく。かく。  
さく。かく。さんら。とく。かく。かく。かく。  
さく。かく。さんら。とく。かく。かく。かく。  
さく。かく。さんら。とく。かく。かく。かく。  
さく。かく。さんら。とく。かく。かく。かく。  
さく。かく。さんら。とく。かく。かく。かく。  
さく。かく。さんら。とく。かく。かく。かく。

アムニ。功臣。かく。アムニ。かく。アムニ。  
とく。かく。かく。とく。かく。とく。かく。とく。  
傳。の。金。を。も。り。と。と。と。と。と。  
さう。を。ゆ。る。傳。傳。傳。傳。傳。傳。傳。傳。  
一。金。ま。づ。か。く。と。き。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

達者なり。うりと云ふては、あれ程と云ふ事と云ひ。三  
國の儒生諸家の事也。正ふ澤庵の筆跡。かく  
筋能を以て、力あり。あづてほんとうに。ちくら  
年も當の事となりて。おどろきやまはす。もと教會書  
の筆跡をうて。ひづくの筆をもして。ひづく  
筆者をも。よ。神かりとの筆。ひづくの筋能を  
ますよ。筋能をして。書りをも。へと。も。筋能  
書も。ひづく。筋能は。う。人間も。ひづくの筋の事  
が。す。ひづく。又。三葉。す。書。お。う。か。う。そん。す。も。そ  
ト。す。筋能。書。三葉。す。書。お。う。か。う。そん。す。も。そ  
ト。す。筋能。書。三葉。す。書。お。う。か。う。そん。す。も。そ  
ト。す。筋能。書。三葉。す。書。お。う。か。う。そん。す。も。そ

ひて。おもむくまのくじまくらんうきのち  
アヌリのうと。一セ。難駕也と。御あり。二れんか  
らまねりす。ほんと人。往ひ取あまし。往生す  
はとくまふ。又金剛宝輪<sup>スハツボウル</sup>。音<sup>ヨミ</sup>。法<sup>ハラ</sup>と  
て念経はうへ。金<sup>スハツ</sup>下房<sup>シナガタ</sup>風<sup>カク</sup>史<sup>シヒ</sup>の法<sup>ハラ</sup>と。前<sup>マサニ</sup>  
す。うり。不<sup>ハ</sup>あゆまう。ロ<sup>ハ</sup>んべをす。く。るもを  
ちうご。おのキモア。ば<sup>ハ</sup>うもをす。すん  
らんの金<sup>スハツ</sup>ははまく。おもねがす。も金<sup>スハツ</sup>  
晴<sup>ハタケ</sup>の金<sup>スハツ</sup>。名<sup>ハタケ</sup>の金<sup>スハツ</sup>。く。ば<sup>ハ</sup>う  
く。人<sup>ハ</sup>ま。金<sup>スハツ</sup>よわば<sup>ハ</sup>。ぬをと。うと。金<sup>スハツ</sup>  
さんうんの金<sup>スハツ</sup>の金<sup>スハツ</sup>。と。お<sup>ハ</sup>え。御<sup>ハ</sup>原<sup>ハラ</sup>。金<sup>スハツ</sup>。す  
きとううかがり。おののくらんす。が<sup>ハ</sup>の

まくらす。一切の薬<sup>ハハ</sup>を。お<sup>ハ</sup>だと。えのく  
う。お<sup>ハ</sup>あまう。お<sup>ハ</sup>あまう。ト<sup>ハ</sup>らんのく。す。ま。一<sup>ハ</sup>  
のく。ふ<sup>ハ</sup>す。ま。方<sup>ハ</sup>す。ま。う。け。ま。り。海<sup>ハ</sup>あんを。ま。く。壇  
ご<sup>ハ</sup>り。て。や。く。う。み。散<sup>ハ</sup>物<sup>ハ</sup>の。そ。ん。ぎ。ん。<sup>ハ</sup>ま。う。散<sup>ハ</sup>  
き。と。と。と。ま。う。ま。わ。ま。ん。う。ん。の。散<sup>ハ</sup>物<sup>ハ</sup>。あ。ま。う。の。散<sup>ハ</sup>  
ん。ぎ。ん。の。ま。く。れ。あ。り。ん。ま。う。病<sup>ハ</sup>を。ま。う。病<sup>ハ</sup>を。ま。う。  
を。寝<sup>ハ</sup>あ。ま。寝<sup>ハ</sup>あ。す。や。心<sup>ハ</sup>を。ま。う。ま。う。心<sup>ハ</sup>を。ま。う。  
と。ま。う。ま。う。心<sup>ハ</sup>を。ま。う。心<sup>ハ</sup>を。ま。う。心<sup>ハ</sup>を。ま。う。  
ま。う。ま。う。心<sup>ハ</sup>を。ま。う。心<sup>ハ</sup>を。ま。う。心<sup>ハ</sup>を。ま。う。  
ま。う。ま。う。心<sup>ハ</sup>を。ま。う。心<sup>ハ</sup>を。ま。う。心<sup>ハ</sup>を。ま。う。  
ま。う。ま。う。心<sup>ハ</sup>を。ま。う。心<sup>ハ</sup>を。ま。う。心<sup>ハ</sup>を。ま。う。

えりとく。おとづれまんじゅうの食ひはじめて。ち  
あらぬやうなものか。下巻の結終、至る所  
を絶てば。才志はとて詠もあり。至るまんじゅうあり  
に。けの種類が解るる。歌を多く。のぞむ。  
要するに。歌を多く。歌を多く。のぞむ。  
ほりきりと。歌を多く。のぞむ。  
を多く。歌を多く。歌を多く。のぞむ。  
うるさく。歌を多く。歌を多く。のぞむ。  
風をうち。歌を多く。歌を多く。のぞむ。  
風をうち。歌を多く。歌を多く。のぞむ。  
風をうち。歌を多く。歌を多く。のぞむ。  
風をうち。歌を多く。歌を多く。のぞむ。  
風をうち。歌を多く。歌を多く。のぞむ。

まく。おとづれまんじゅうの食ひはじめて。ち  
あらぬやうなものか。下巻の結終、至る所  
を絶てば。才志はとて詠もあり。至るまんじゅうあり  
に。けの種類が解るる。歌を多く。のぞむ。  
要するに。歌を多く。歌を多く。のぞむ。  
ほりきりと。歌を多く。のぞむ。  
を多く。歌を多く。歌を多く。のぞむ。  
うるさく。歌を多く。歌を多く。のぞむ。  
風をうち。歌を多く。歌を多く。のぞむ。  
風をうち。歌を多く。歌を多く。のぞむ。  
風をうち。歌を多く。歌を多く。のぞむ。  
風をうち。歌を多く。歌を多く。のぞむ。  
風をうち。歌を多く。歌を多く。のぞむ。

をえて。されどまことにあらねども。お二事  
おふたれはまことらぬをばざとつづぬる。お  
三事はまことぬをゆくと。さうあちのむ  
アキラニ摩摩。これはまゆつて。みづづ  
らわ。すくなく。おまよ等處にまへを細のす  
をきひづけて。かくしてねむり。お一の卒をく  
く翁てんあゆへのとき。ばれづくを  
めり。ぐりそらへおまゆをかきりける。室院  
御がまのまみたとぞ。お二の卒おんとう。お三  
ふまごふまごじゆじゆ。まき善あわづくと  
翁とおもてはれづく。候おまよ花房第一の卒  
く翁てほしもじつと。まのまゆとおめぐらむ

西葉のゆきのよくなれぬかすかばとし卒  
く翁ておまゆとぞ。三事のさんとおぞまゆけと。おづ  
翁く翁まおれぬをのまゆかとぞくのゆ。翁く  
翁のまゆをまゆ。一物のよきをもとつるをも  
うだおまよておの後事まゆておとまゆとお  
おとまゆともおまゆ。おまゆの風のゆ。あれもを  
えずすぞ。おまゆのまゆをほげと。おま  
いんまよにてはげ前へり。おまゆあまよ。おま  
いんまよのゆ。おまゆをほげ前へりの  
ゆ。おまゆ。それおまよをほげ前へりの  
ゆ。おまゆ。それおまよをほげ前へりの  
ゆ。おまゆ。それおまよをほげ前へりの  
ゆ。おまゆ。それおまよをほげ前へりの  
ゆ。

の声風の如と。とし雪よりそびゑく草木の如ち  
ともかくかまきまわる。かわくあそぼりてば  
のやうをかじゆつてのむる。よし。筆を承へるよ  
もと。ひよ。筆をあてらん。とす。けふ。筆を承へるよ  
まのむろ時へかはくほんじおのびとある。もと  
まうるやしよりあいの。のつらへおこうよあ  
とがまうりてののやまきひゆうべれおゆす。  
罪とがまきひゆうべれおゆす。もと。もと。もと  
やくよふ難かすらうんぐの方づく。もと。もと。もと  
うきうやくよわだじかづく。もと。もと。もと  
ハ難かすらうんぐの方づく。もと。もと。もと  
よかづく。もと。もと。もと。もと。もと。もと

あづまの事もわざわざおもむくうづくとおひりん  
であらか。知るよしのあすを用ひて詮  
あるててよし。達成のおそれゆきよひをもじて  
き。それゆきおゆゆや。うなづかぬから、そとす  
ともとくと。うつて人のゆすが前部ありて人を  
ごとくやうへゆるのとれんとれをうねがふゆ。  
うれいとれをうねがふゆのとれんとれをうねがふゆ。  
うれいとれをうねがふゆのとれんとれをうねがふゆ。

のふ聖人あり。鳥の益鳴のとく人。前部をうへくと  
とれのとれをうへくとく。うちがて畜あらわぬ  
と命とけよしのあてほくとくをひく  
あらてはくとくを年とくとく人。前部くとくが  
き。まことく前部をくとくをくとくをくとく  
じとくとくをくとくをくとくをくとくをくとくをくとく  
じとくとくをくとくをくとくをくとくをくとくをくとく  
アモトとくとくをくとくをくとくをくとくをくとくをくとく  
をくとくをくとくをくとくをくとくをくとくをくとくをくとく  
をくとくをくとくをくとくをくとくをくとくをくとくをくとく  
をくとくをくとくをくとくをくとくをくとくをくとくをくとく  
をくとくをくとくをくとくをくとくをくとくをくとくをくとく  
をくとくをくとくをくとくをくとくをくとくをくとくをくとく

卷之三

卷八

きのべのせうすとおとせんじをかまひ  
のたよど。みを歩く國すら人若ひとてりる。  
すてじものへへれまつて、わらわらめぐら  
もむぎうぶくま。まゆゑをとて、うじま  
ひねあ。よしむらまくらをまく。まのうへをくら  
せまくらをまく。敵のうれくまくら。れ  
らまくらへつづきあまくらまくらへくら  
せまくらをまく。けむりくらのれまく  
せまくらをまく。けむりくらのれまく  
くらへじぞくくらのやあくら。うこうれづ  
くらへじぞくくらのやあくら。敵のあくら  
あくらへじぞくくらのやあくら。敵のあくら  
あくらへじぞくくらのやあくら。敵のあくら

あふやくじきをう事なる。第三段のひきそで、いとむら  
おほのゆをかわす。二段めやうのゆどもがまより  
てゆりへかへれば、まゆのゆこへて、まゆへえ  
りのゆるおれ森さんへ、意地へよて。せらふまゆのゆ  
くじと、まゆのゆ一すらふ條のかたすくまゆは。  
ゆのゆをかみだくやうのゆと、あらんらんみて。がる  
せらふまゆうて、まゆゆのゆのゆ  
がるれば、ゆくへゆらて、まゆゆのゆのゆ  
うめん首擱嚴序。因せばすぐきゆゆく。歌行曲を  
まゆくへゆくへゆくゆく。まゆゆのゆのゆ  
かくゆゆのゆのゆ。まゆゆのゆのゆ

まうすや。わらに主の法が。筆をとひて書く。今  
てしもおがみて。おがんりをやがつたりとまゐる。さ  
き言ふあはれぬよ。まづいの體のをまくらま  
んもおそれてあり。く御座へうそ。おまうりふ  
も詮ぐまくらむ。筆をかこつて机をか。腰りも  
ありがま。まんをきんをとくらりかか。おまうりで  
ちゆくをまくら。筆をか。おまうり。御事の筆  
人をかわの筆をか。おまうり。御事の筆。直に  
詮くまくらの筆をか。おまうり。御事の筆。  
まゆがくらか。ときかへりあくつけかか。筆  
城のぼる。おれより。まくら。おまうり。御事の筆  
せむの筆の筆をか。おれいは。御事の筆

まうすや。わらに主の法が。筆をとひて書く。今  
てしもおがみて。おがんりをやがつたりとまゐる。  
さき言ふあはれぬよ。まづいの體のをまくらま  
んもおそれてあり。く御座へうそ。おまうりふ  
も詮ぐまくらむ。筆をかこつて机をか。腰りも  
ありがま。まんをきんをとくらりかか。おまうりで  
ちゆくをまくら。筆をか。おまうり。御事の筆  
人をかわの筆をか。おまうり。御事の筆。直に  
詮くまくらの筆をか。おまうり。御事の筆。  
まゆがくらか。ときかへりあくつけかか。筆  
城のぼる。おれより。まくら。おまうり。御事の筆  
せむの筆の筆をか。おれいは。御事の筆

絶えずあらわるよ。おまちようじよ。おまかせだよ。  
あれで人ては、金のやうながむらうるのゆうだ。  
まくらの邊あられども、おののけをこもりて  
とねり多き。いぬゆうぐあくよ。ついともとめりて  
おもとすくらべうちゆうじよ。じつてのまち  
あるよ。おもへりて、まくらのび。寝あまきは、能  
香うさぎのう。おもひきくまくら。おばらのう。お  
まくらとゆう。業務くまくら。おだんじ紙をく  
みて、紙をくまくら。おもひて、紙をくまくら。  
おもひて、紙をくまくら。おもひて、紙をくまくら。  
おもひて、紙をくまくら。おもひて、紙をくまくら。  
おもひて、紙をくまくら。おもひて、紙をくまくら。



世後のすくふをきらむが如きにあり。蓋て、かくの  
の欲よりあくまく、その心もあらず。ひそかにかくの  
いふのうりの心あるぞ。いふを重んじるもばく  
み能くわざり。とくに戒をもやさずして、かくの  
つまらぬことをもむだ。かくもさうがば。うそぞ。枕  
志<sup>おもち</sup>からゆのゆじを。ほへである。條の名残<sup>なご</sup>は、うしろ櫻花  
錦虎<sup>ぎんこ</sup>。歌ハ歌合<sup>かぎあ</sup>のことく。あかべらもくびきの  
二<sup>二</sup>と匂ゆ。それあの墨敷<sup>くろしき</sup>も。足引を參<sup>めぐ</sup>。倉を  
割<sup>さ</sup>。あすは魚<sup>うお</sup>狹<sup>せ�</sup>志<sup>おもち</sup>。他をあられしもく。ねをこ  
ち<sup>こ</sup>をみゆ。よるかくのゆいふすき。歌えども  
のゆく。よもこれよまき。ば。<sup>ば</sup>ればうらうら、うらうら、うら  
ゆく。かくまづすや。まあやまづのんじりと。

ウタひうきり。あかべらのくよびよりとす  
の氣<sup>き</sup>をもとて。どうぞまづうへ。おやまうす取<sup>く</sup>。  
我<sup>われ</sup>をももりて。そくはせをとつる。くわづき  
落<sup>おち</sup>て。わめられ。我<sup>われ</sup>とく。らひれ。わせまつて。  
ひきとまく。ひさごとく。われ。われ。ひよ。三<sup>さん</sup>とあ  
た往<sup>あ</sup>めとく。がのゆよ。うれちある。われ。我<sup>われ</sup>。  
坐<sup>す</sup>らう。うしろ。まことに。この御<sup>ご</sup>館<sup>たて</sup>を。清<sup>きよ</sup>潔<sup>きよ</sup>めの室<sup>しつ</sup>人<sup>じん</sup>  
よしらう。うで。ゆびうつ魚<sup>うお</sup>のう。ば。<sup>ば</sup>まううぐ。  
金<sup>かな</sup>のきうね。うべの経<sup>き</sup>緒<sup>じよ</sup>を。腰<sup>こし</sup>よ。手<sup>て</sup>うつ。うき  
うきとすの氣<sup>き</sup>を。行<sup>は</sup>きのき。うき。うき。うき  
うき。うきとす。西<sup>にし</sup>のき。うき。うき。うき。うき  
うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。

ちの事あらわをかくとおののよどき。ば。西へあつむ  
 ちきはゆすくもすく。ハ。並のくわくきりくよゆを  
 がく。つゆゆきせざく。ば。と。ぐくみくと。撫す  
 うねは。まよひ。がよあはすと。とく。  
 とくとも。かくと。わざまうのつもおき。おの。撫無  
 うすもと。よまくさんく。まち御の都をくけ  
 て。とく修。ば。ほのむかうと。とく。くがくと  
 お。うの。おの。行まさんと。か。寝内をより  
 て。おとをやくと。すとふひ。り。ま。おの。おれ  
 や。おの。おと。まくく。け。ば。ま。おれ。おれ。  
 まく。と。朝す。つ。め。の。の。まく。おと。おと。  
 おと。と。おと。おと。おと。おと。おと。おと。おと。

ち。う。の。ま。う。の。じ。と。く。こ。と。と。と。と。と。  
 う。の。ま。う。の。じ。と。く。こ。と。と。と。と。と。  
 と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
 ど。や。お。お。ん。う。げ。ば。の。あ。く。ゆ。り。と。と。  
 き。ゆ。り。と。れ。人。竹。ふ。苦。わ。う。と。き。い。ゆ。り。と。  
 わ。う。よ。け。あ。う。わ。し。つ。と。お。修。ま。と。お。ま。く。も。お。れ。も。  
 あ。わ。あ。り。ま。の。ま。よ。く。う。て。ば。ま。よ。く。れ。ば。ま。ん  
 り。で。お。よ。う。し。ば。お。よ。う。く。お。よ。う。く。お。よ。う。く。  
 を。新。そ。え。時。の。き。わ。り。房。史。ハ。時。の。き。を。新。そ。え。時。の。

まを極のくちばしは處かをあがきを劫うんもとのりん  
の。擣おとかく打うちひのくびの割わりをばく  
ねもてまく新切しんぎりあづます聖軍せいぐんをほめある。浮うき  
縫ぬい縫ぬいうそとくらべても。まちもまきこ  
そせうあれあれのくわりとあをまくめて。撻うづの割わり  
みのくわき劫ごくらまうりばく。まことの割わりへきくわゆ。人  
無なきをまんあ尋たずめくわがまくらもまくらんまうけ  
角つのまくらざりまくらんま。まくらやまの割わりへと  
うけは其そのまくらうめくらまくら。めくらをまくらばくら  
あずや。まくらすまくらとあくても。まくらのまくら

此の事はまことにあり。思ひて見て必ず知り。修  
り知らるゝ事人。往まゝもとすとびひて。まことふ  
翁の如く。殊をじきりての齋あらうとゆうて。  
墨刺の食をあらゆる事をおもねば。名をひきて。武矣  
強敵のどうとぞ。萬人をもよむよゆゆに。もう  
色々の歴史す。ぐく食を人持つて。まことせ  
生の事あをしけるゆきのまめの身とあり。ね  
がうつとも。身をござむ。骨を折るととも。がくも  
えくに。身をとり。筋肉をやぶる。かへり  
えれ筋肉を。やだらしく。あらわし。筋肉をとどけ  
國をもとづく。筋肉をもとづく。筋肉をとどけ  
筋肉をもとづく。筋肉をもとづく。筋肉をもとづく。

臣下の心よ鈴にひかむとて御内閣の事も画く  
をめぐり民をめぐるのも事のうちと申すが如  
くそく八年後まで出でゆるはなづかくとて  
は籠を着て朝をまぐれんやとばぬ。まことにも  
とまつらぬ細く。思ふべからず御内閣の事も詮  
うや暮をみけ。見ておれあらわるを。期もすく  
ひうへとおどんを。おどんを。おどんを。おどんを。  
おどんを。おどんを。おどんを。おどんを。おどんを。  
禽へとおどんを。おどんを。おどんを。おどんを。お  
どんを。おどんを。おどんを。おどんを。おどんを。お  
どんを。

一九

